

訓練実施状況(全般)



番号	訓練内容
1	住民避難訓練 要支援者避難訓練
2	住民避難訓練 要支援者避難訓練
3	住民避難訓練(JR) 要支援者避難訓練
4	住民避難訓練
5	JR避難訓練
6	安定ヨウ素剤搬送訓練
7	船舶避難訓練(ひうち)
8	船舶避難訓練(おき)
9	住民避難訓練(CH-47)
10	ヘリ避難訓練(UH-1)
避	避難退域時検査体験等
本	災害対策本部等訓練 情報伝達訓練 安定ヨウ素剤服用等訓練
その他、23小・中学校、保育園等	



境港市原子力防災訓練 (成果及び課題等)

訓練項目	成果	課題等
災害対策本部運営訓練等	地震発生時の初動対応から原子力災害の発生及び事態の進展に伴う各種本部運営会議等を開催することができた。	本年度は、訓練が市単独の訓練シナリオにより行われたため、県との連携及び対応要領等の訓練はできなかった。
多様な手段による住民避難訓練	1 バス、JR及び陸上自衛隊の車両及びヘリによる避難訓練が実施できた。 2 住民の避難開始に1時間程度の時間差を設定し、2段階で避難を行った。 3 海上自衛隊多用途支援艦艦船「ひうち」及び海上保安庁巡視船「おき」への乗艦、船内見学、湾内航行等により、船舶避難訓練の理解を深めた。(鳥取港への航行は波が高く中止)	1 住民71名の参加を得たが、平日の訓練という事もあり、 <u>例年より参加者の高齢化(60歳以上が80%)が目立つ結果</u> となった。 2 <u>JR避難者の下車時のスクリーニングに関する問題点</u> 3 <u>船舶避難訓練における問題点等</u> ・船内汚染の防止対策 ・防護の服装未徹底 ・U P Z圏内の行動制限 ・空調の循環要確認 4 <u>自家用車(バス)避難者の寄り道対策の検討</u> (渋滞によるトイレや食料等購入)
避難行動要支援者の避難訓練	市内3カ所において、車いすを使用した在宅避難行動要支援者避難を行った。	アイマスク及びびりヤカーを利用した訓練は、 <u>参加住民の年齢が余りにも高齢のため中止</u> した。(次年度依頼時は要調整)
避難場所確認及び避難体験等	鳥取産業体育館に開設した広域避難所を見学し、受入体制の確認や避難体験、避難所作成体験を行うことができた。	<u>避難所の開設状況が小規模で、参加者が考えていたものや掛け離れていた。</u> もう少し住居エリアを作成し、実配置しなくても共用スペースに娯楽場所(TV等)、湯茶場、PCエリア、食料配布場所等の配置状況などをテープ等で区画表示して、 <u>避難所の全体像が確認できるような工夫が欲しい。</u>
安定ヨウ素剤服用等訓練	地震により一部の一時集結所が使用できない状況を想定し、保健相談センター講堂に臨時的安定ヨウ素剤配布場所を開設し、服用説明等を2回行った。	<u>複合災害発生時の施設被害を想定し、また臨時的安定ヨウ素剤配布場所の開設要領及び配布の係る職員の対応能力向上</u> を兼ねた訓練として <u>継続実施</u> する。
安定ヨウ素剤搬送訓練	調剤拠点薬局からの安定ヨウ素剤(水剤)受領要領、配送場所(6カ所)、配送経路及び配送時間(36分)の確認ができた。また、地震による道路被害を設定し、一部徒歩による搬送を実施した。	昨年と同じ配送経路であったが、 <u>一部徒歩により配送した結果、前年比13分遅れの配送を確認</u> した。今後、各種事態を想定した訓練により、配送時間の短縮に努める。
原子力防災講座	鳥取大学講師による講座、ワークショップ、広域住民避難計画等説明により、原子力災害の基礎及び災害発生時の対応について理解を深めた。	昨年度は2日(共に平日夜間)実施し33名の参加であったが、 <u>本年は土曜日の日中に1回行い40名の参加</u> を得ることができたため、今後の開催要領について県と検討する。 4

細部実施状況（初動対処訓練等）

1 災害対策本部等運営訓練等

- ① 境港市災害対策本部等運営訓練（地震及び原子力災害対処）の実施
 - ◇ 訓練参加者：14名（リエゾンを含む）
- ② 境港警察署及び境港消防署派遣員との情報共有
- ③ 中国電力連絡員による事象報告
 - ◇ 訓練参加者：16名（リエゾンを含む）

<主な成果>

- ① 境港市災害対策本部運営訓練により、地震発生時の初動対処、関係機関との情報共有、島根原子力発電所の事故の推移に応じた、各種対応手順の確認
- ② 国・2県6市TV会議により事象対応方針や国・県・各市の対応について情報共有できた。
- ③ 中国電力の情報連絡員による専門的な説明



地震災害対策本部運営訓練



原子力災害対策本部運営訓練



中国電力による説明

2 情報伝達訓練等

- ① 緊急速報（エリアメール）による情報伝達
- ② 防災行政無線、市HP等による住民広報
- ③ 無線による適時適切な状況報告

<主な成果>

- ① 適時適切な情報の伝達及び授受
- ② 無線の取扱い及び情報伝達要領の確認

細部実施状況（住民避難訓練①）

3 住民避難訓練

(1) 参加住民数等（◇ 訓練参加職員：35名）

地区名	渡	上道	中浜	誠道	合計
参加者数	20	17・3	19	12	71
集結所数	4	3	4	1	12
避難手段	バス	バス・UH-1	バス+JR	バス	



一時集結所参集状況

(2) 住民避難訓練

- ① 一時集結所参集訓練
- ② 避難者名簿の記載
- ③ 多様な避難手段による避難訓練
- ④ 防護服到着用訓練（職員）
- ⑤ 消防団による誘導訓練
- ⑥ 鳥取市までの広域避難訓練（住民8名）
- ⑦ 逃げ遅れた住民のCH-47による避難訓練（住民10名）



バスによる避難



CH-47による避難



避難所45 避難者体験



自衛隊車両による避難

細部実施状況（住民避難訓練②）

（3）在宅の避難行動要支援者搬送訓練

地 区	渡	上道	中浜
参加者数	3	3	3
避難手段	車いす	車いす	車いす

- ① 3地区で在宅の避難行動要支援者の搬送訓練を実施
- ② 上道地区の参加者は、陸上自衛隊の高機動車及びUH-1ヘリコプターにより逃げ遅れた住民を想定し、避難退域時検査会場まで避難訓練を実施

<主な成果>

- ① 在宅避難行動要支援者避難要領の周知
- ② 車いすの取扱い及び搬送要領
- ③ 地域住民の共助体制



7

細部実施状況（住民避難訓練③）

（4）避難退域時検査会場（中山農業者トレーニングセンター）

- ① 避難退域時検査会場で車両点検を受け、車体洗浄により付着した放射性物質の除染を受けた。避難訓練参加者は下車せず、バス内で洗車状況を見学した。
- ② 住民は、避難退域時検査会場で放射性物質の付着状況等の点検を体験した。
- ③ 住民に避難退域時検査会場における役（要支援者役3名、簡易除染役4名、外国人役3名）を依頼し、県の行う訓練に参加してもらい、各種要領の体験・見学を行った。

<主な成果>

- ① 車両除染実施状況の確認
- ② 避難退域時検査会場における一連の検査等の体験



車両点検会場



車両除染



検査会場



汚染検査



要支援者対応

8

細部実施状況（安定ヨウ素剤服用説明等訓練）

4 安定ヨウ素剤服用説明等

- ① 各地区の住民を境港市保健相談センター講堂に集め、安定ヨウ素剤服用説明・問診票記載要領・問診・ヨウ素剤の模擬配布・服用までの一連の動作について説明及び一部の住民に体験・展示させることにより理解を深めることができた。
 - ② 服用説明には西部薬剤師会から2名の薬剤師の派遣を受け実施し、専門的な説明のほかアレルギーや持病保有者の服用等について質疑応答が行われた。
- ◆訓練参加者数：住民71名、薬剤師2名

<主な成果>

- ① 安定ヨウ素剤服用に至るまでの一連の体験
- ② 薬剤師との調整、連携の強化



細部言実施状況（安定ヨウ素剤配送訓練）

5 安定ヨウ素剤（水剤）配送訓練

- ① 調剤拠点薬局（増谷薬局蓮池店）の薬剤師による安定ヨウ素剤（水剤）の調合訓練の実施
 - ② 市職員による一時集結所への配送訓練の実施
 - ③ 外江公民館前の道路は、地震による家屋倒壊等により車両の通行が不可能という状況を付与し、この間は徒歩による配送を実施
- ◇ 訓練参加職員：2名
配送箇所・時間：6カ所・36分
※昨年：同経路で配送時間23分（徒歩なし）

<主な成果>

- ① 配送経路、配送場所、配送時間の確認
- ② 徒歩によるヨウ素剤配送
- ③ 薬剤師との連携強化



6 学校、保育園等の訓練

学校等において、通信連絡訓練、学校等の施設状況等確認、保護者引渡し手順の確認及び屋内退避訓練を実施（保育園等）

- ・ 10月26日（金）10：00～
つばさ保育園
- ・ 10年30日（火）09：55～
わたり・あがりみち・なかはま・梅檀・みなと・あまりこ
育成・外江・夕日ヶ丘保育園、夕日ヶ丘ひまわり保育園
美哉・聖心幼稚園
（小中学校）
- ・ 小中学校については、非常事態時の対応要領について
教育総務課と各学校で見直しを実施中のため訓練につい
ては年度内に行う予定

<主な成果>

- ① 情報伝達及び施設確認等、各種手順を確認できた。
- ② 保育園等では、1147人の安否確認を実施した。
- ③ 保護者への引渡し等について確認できた。
- ④ 屋外活動中の児童等の屋内退避訓練ができた。
- ⑤ 子育て支援課で各園からの報告を集約し、課題の検討を行った。



11

7 原子力防災講座

実施日：平成30年10月20日（土）

- ・ 鳥取大学 北 実助教による講座
「放射線の人体への影響と原子力災害時の防護措置」
- ・ 住民避難に関するワークショップ（総合防災リレーショ）
- ・ 広域住民避難計画の説明 等
- ◆ 訓練参加者 住民：40名 職員4名

<主な成果> 原子力災害時の避難要領等の理解



8 船舶避難訓練

実施日：平成30年8月18日（土）

海上自衛隊多用途支援艦「ひうち」による境港から鳥取港への移動は天候不良のため中止となったが「ひうち」及び海上保安庁巡視船「おき」への乗船及び艦内における説明、見学、美保湾内の航行は実施できた。

- ◆ 訓練参加者 申込者15名、職員2名

<主な成果>

- ① 船舶避難の概要及び避難時の船内行動の理解
- ② 船舶避難時の自衛隊及び海上自衛隊の対応要領
- ③ 艦艇による航行体験

